

## これから実施される大学改革とは

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 明けましておめでとうございます。開倫塾塾長の林明夫です。今年もよろしくお願ひいたします。この「開倫塾の時間」は、今年3月にいよいよ29年目に突入し、来年は30周年を迎えます。引き続きお聴きいただければと思います。
2. 今日は新年の第1回目ですので、日本のこれからの教育はどうなるのかという、少し難しく、本格的なお話をさせていただきます。

12月22日に中央教育審議会、いわゆる中教審が「これからの大学教育をどうするか」について提言を出しました。中教審の会長を務められているのは、私が尊敬している前慶應義塾大学塾長の安西祐一郎さんです。安西先生を中心とする中教審は、これからの高校教育や大学教育に関してものすごい提案をしました。それは、知識偏重・1点刻みの大学入試をやめ、ものごとを考える力である思考力や判断力をみる大学入試に変えるというものです。そのために、高校教育や大学教育を抜本的に改革すべきと提案しています。
3. 具体的には、大学入試センター試験を廃止し、大学入試希望者の学力評価テストを新たに導入することが柱です。早ければ、現在の小学校6年生が高校3年生になる2020年、あるいは2021年の初め頃の実施を見込んでいます。

この学力評価テストには、センター試験とは違い、従来の教科型に加え、数学と理科をいっしょにというような複数の教科を合わせた出題・教科の枠を越えた総合型の出題があるのが特徴の1つです。また、記述式の問題を取り入れた英語の民間試験を利用することも特徴です。

さらに、ゆくゆくはコンピュータで出題したい・各大学が個別入試で使う成績は1点刻みではなく、段階別の評価で示そうなどという案も出ています。
4. これらが、実現すれば、共通一次試験が導入された1979年以来の大改革になります。ただ、新しいテストの具体化はこれからで、高校や大学からは不安や反発の声が上がっています。
5. 私はこの改革に大賛成です。これから大切になるのは思考力や判断力だからです。これからの世の中はグローバル化が進みますので、多様な集団で、つまり世界中の方々と交流しなければなりません。また、知識が基盤となった社会になりますので、知識・技術・情報を上手く組み合わせながらものごとを処理することが求められます。さらに、少子化・高齢化・原子力発電・CO<sub>2</sub>・人口減少などの様々な問題が山ほどありますので、それらを解決する能力も身に着けなければなりません。

そうしないと、これからの世の中では人生を全うすることができないと思います。

6. ですから、小学生・中学生・高校生の間にものごとを自分で考える力や判断する力を身に付けていただきたいと思います。そのような意味で、1点刻みの大学入試ではなく、いろいろな教科から複合的に出題される入試、例えば英語であれば、読む・聞く内容だけでなく、書く・話す内容も同配点で出題される入試に変えていただければと考えています。これは、経済界の方々からの要望も多いです。また、国際社会で活躍するの方々、大変な状況になっている地域を自分たちの手で再生しようと考えているの方々にとっては、今の大学入試には多くの問題点があると日頃から言われていました。それが改革という形になったと思います。

7. もしこの改革が実施されますと、高校の教育内容ががらりと変わります。中学校の教育内容もがらりと変わります。それに応じて、小学校の教育内容も随分変わると思います。その頃になりますと、小学校ではおそらく3年生ぐらいから英語が正規の教科になると思います。コンピュータももっと教えられるようになるなど、教育の中身が変わると思います。

8. これによってどうなるかといいますと、例えば英語を習う小学生は相当増えると思います。開倫塾を含め英会話学校では、今年あたりから英語を勉強する小学生がかなり増えてきました。英語検定5級に合格しようとしている小学生がたくさんいます。中には、4級や3級にチャレンジしようとしている熱心な小学生もいます。

現状でもこうですので、これからは驚くほどの英語ブームがやってくると思います。おそらく、何年か後には東京を中心とする首都圏の私立中学校を受験する方の大半は、小学生のうちに英検3級を取得して受験に臨むという状況になると思います。

9. このように、大学入試が変わると高校入試の形が変わり、それによって高校教育の内容・中学校教育の内容・小学校教育の内容も随分と変わってくると思われまます。ですから、この番組でも、これから先どのような教育改革が行われるかを1年間を通して皆様にご報告させていただきたいと考えています。

10. ところで、今年の景気はどうなるのでしょうか。これは誰にもわかりません。ただ、私たちがやるべきことは自分たちの力・能力を十分に身に付けておくことです。どのような状況になっても決してあきらめることなく、自分は、自分の会社は、自分の家族は、この地域はそれぞれの状況に応じてフレキシブルに、柔軟に困難に対応できる、このような自分や家族をつくり、会社や地域を整備したり用意したりすることが大事であると思いますので、よろしく願いいたします。

11. この1年も、「開倫塾の時間」で少しでも皆様のお役に立てるような話をしていきたいと考えておりますので、お聴きいただければ幸いです。また、このような話をしてほしいという要望がありましたら、栃木放送へお寄せいただければ有難いです。

今年もどうかよろしく願いいたします。